



## An interview with Irina Kulikova

インタビュー

# イリーナ クリコヴァ

待望の初来日を果たし、激まないテクニックと優れた音楽性で日本の聴衆を魅了したイリーナ・クリコヴァ。来日直後にして本番前日という慌ただしい中にもかかわらず、快くインタビューに応じてくれた。

### ◎プロフィール

1982年ロシア・チェリャビンスク生まれ。母の手ほどきで音楽を始め、12歳で国内外で演奏旅行を行ない、14歳でイギリスの専門誌「クラシカルギター」に取り上げられる。モーツァルテウム音楽院（オーストリア）、マーストリヒト音楽院（オランダ）卒業。アレクサンドリア国際、アランプラ国際など世界の主要ギターコンクールで優勝を飾り、世界各地で演奏活動を行なう。現在はオランダ在住。公式HP：<http://www.irinakulikova.com>

2013年9月19日

インタビュー●編集部／訳●森井英朗／写真●宮島折恵

### ◎レコーディング予定

——初めての日本の印象はいかがですか？

**K** まだ空港からバスに乗って来たときに外を見たくらいで……、これから日本の印象を感じるのを楽しみにしているところです。日本での演奏のために多くの場所を訪れるので、様々な文化に触れる機会があると思います。今回のインタビューも最初の印象のひとつですね。とても良い印象ですよ（笑）。

——どのようなプログラムを演奏されるのですか？

**K** 前回リリースしたCDから何曲か演奏します。バッハの〈チェロ組曲第1番〉や、ソルやレニャーニなどの19世紀の作曲家たち、それにアルベニスの〈アストゥリアス〉やタレガの〈アランプラの想い出〉などの有名な曲も演奏します。しかしそれだけでなく、1週間後にナクソスに録音することになっている次のCDからの曲も紹介したいと思っています。日本ツアーの後、カナダに向かいロシアの音楽集を録音する予定です。今回のコンサートの第2部ではその中から特に私のお気に入りのヴァシリエフ（Vassiliev）の曲をいくつか紹介します。

——ヴァシリエフですか。

**K** 現代ギターから彼の〈3つの森の絵〉（Three forest

paintings）を出版してくださって、本当にありがとうございます！ 楽譜が出版された事で多くの方がこの曲を演奏するようになり、私もこの作曲家を知る事ができました。彼はシベリア地方出身のロシア人で、私と同じくヨーロッパに拠点を持ち、彼はドイツに住んでいます。彼の音楽が本当に大好きです。

——現代ギターでの出版でこの曲を知られたのですか？

**K** はい、あなた方がこの楽譜を出版してくれたおかげです。彼はたくさんの曲を書いてはいますがほとんど出版されていないため、人々には知られていませんでした。楽譜の出版のおかげでコンクールなどでもこの曲が弾かれるようになりました。初めて聴いたときは「この素晴らしい曲は誰の曲？」と思いました。彼の曲が弾きたいと思い連絡をとったところ、もっとたくさんの作品を送ってくれました。

——これからロシアの音楽集を録音されるのですか？

**K** はい。10月の初めにカナダに行きナクソスのために録音します。来年の夏には発売される予定です。3人の作曲家（の作品）を含み、30分程度はコンスタンティン・ヴァシリエフ（Konstantin Vassiliev）の曲で、新たに書かれ私に献呈された作品を含みます。（その曲は）今は

まだコンサートでは弾いておらず、来年の夏以降CDが発売されてから披露する予定です。2曲はセルゲイ・ルドネフ (Sergei Rudnev) のもので、そのうち1曲は今回のコンサートでも演奏します。それからヴィクター・コズロフ (Viktor Kozlov) です。彼は私の出身地チャリビンスク (Chelyabinsk) での先生でした。

### ◎演奏活動と家庭

——最近、ご出産をされたと聞きました。

K はい。女の子でマリアという名前です。もうすぐ1歳と2ヵ月になります。今回は娘がいない初めての旅行なので、とても恋しいです。娘とはすでに色々な国へ行きました。カナダにも一緒に行きます。その後もノルウェーやデンマークに行く予定ですが、メキシコは遠すぎるので連れていけないと思います。

——旦那さんは音楽家ですか？

K 彼は国の省庁で働いています。個人情報の流失や偽の証明書等を取り締まる仕事です。

——あなた宛のメールの返事はいつも旦那さんから送られて来ます。

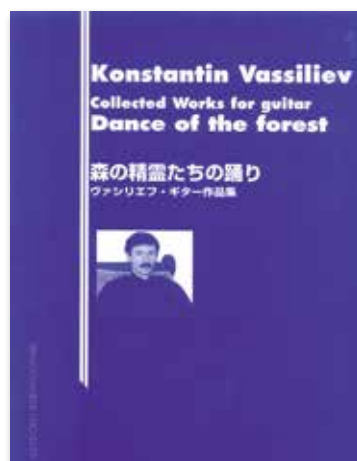
K 彼はとても助けてくれています。私のマネージャーはカナダにいますが、主人はいつもそばにいて私を支えてくれる存在です。彼のおかげで練習や料理に時間を割くことができます。彼は音楽にとっても情熱を持っていて、知識も豊富です。新しいプログラムを決める時はまず彼に聴いてもらって判定してもらいます。彼は私の審査員なのです (笑)。娘のマリアはギターとピアノに興味を持っています。私が練習している時にはギターケースの中に座って (音楽に合わせ) ケースを開けたり閉めたりしたり、ギターのそばに来て弾きたがったりします。ピアノの蓋はいつも開けたままになっているので、鍵盤の前で長いこと忙しそうにしています。いつの日か彼女と共演できればと思っています。

——音楽家になってほしいと思っているのですね。

K いいえ。それは彼女が決めるべきことです。ただ、娘には音楽を知ってほしいと思っています。そうすれば、私がどんな仕事をしているか理解してくれるはずですから。

——子育てと音楽のキャリアを両立する上で難しいと思っていることは何ですか？

K 彼女が産まれる前は多くの時間を (ギターに) 費やしていました。演奏旅行も多く行っていました。2012年の夏頃に女の子を産む夢を見ました。そしてその通りになったのです。コンサートの予定を入れていなかったその時期に妊娠できたのは幸運でした。妊娠期間中も辛いことはなく、臨月で飛行機に乗れなくなるまでたくさん旅行もしました。出産後は夫が本当に大きな助けに



〈3つの森の絵〉が入っている、ヴァシリエフ・ギター作品集『森の精霊たちの踊り』

なってくれました。出産後初めてのコンサートは彼女が6ヵ月の時でしたが、夫と娘と共に旅行しました。私のギターキャリアにとって新しい経験となったのは母親と音楽家の役割を交互にこなさなければならない事です。コンサートの直前までミルクをあげて、演奏中には夫に赤ちゃんを預けます。30～45分間の演奏の後、休憩時間になったら戻って来てまたミルクをあげたりオムツを取り替えたりといった具合です (笑)。とても新鮮で、素晴らしい冒険でした。

——そのような時でも集中してコンサートに向かう事ができたのですか？

K より大きな責任の中で、より多くのアドレナリンが作られるような感じですが、瞬間的に集中を切り替える方法を身に付けられるようになります。練習する事も難しい挑戦です。自分一人であれば外出したりして練習を先延ばしにする事もできますが、赤ちゃんがいたらそうはいきません。まるで軍人のように効率的に行なわなくてははいけません。綿密な計画としっかりとした集中力があれば乗り越えられます。それは普通では体験できない生活で、楽しくもあります。

——ストラトブルでのコンサート直前に娘さんが病気をしたにもかかわらず、コンサートは大成功だったと現地日本人の方から聞きました。

K あなた達のスパイがいたのですね (笑)。コンサートはともうまくいきました。あれは彼女が初めて病気になった時でした。普段はとても健康で元気なのですが、その時はインフルエンザにかかってしまったようでした。コンサートの日にとても具合が悪くなりました。本当は私はその時間には練習をしてコンサートの準備をしているはずでしたが、彼女のために走り回りました。担当医がコンサート会場まで来て下さった後、30分間で準備をし、演奏しました。次の日には私が病気になりました (笑)。とても辛かったです。コンサートの後にかかったのは不幸中の幸いでした。娘の病状はとても心配でし

たが、プロの演奏家として今まで様々なトラブルを経験したことが助けになりました。

### ◎他のギタリストとの交流

—あなたは英語をとても流暢に話されますが、どこで勉強されたのですか？

K 始めはロシアで1ヵ月ほど勉強しました。14歳の時にホセ・マリア・ガジャルド・デル・レイ (Jose Maria Gallardo del Rey) がイギリスのウェストディーン (West Dean) で行なわれるサマーコースに参加できるように手配してくれたのです。そこでデイヴィッド・ラッセルなどに会うことができました。そのために英語が全く分からないところから、(レッスンを) 理解できるレベルまで英語を勉強しなければなりません。会話の練習をしましたが、私にとっては英語を書くほうが喋る事より難しいです。夫との会話も英語です。マリアは……私の娘はロシア語と英語とオランダ語を聞いて育っています。

—ガジャルド・デル・レイさんに関してのお話が出ましたが、彼の〈カリフォルニア組曲〉に関してお聞きしても良いですか？

K ホセ・マリアとはとても特別な絆があります。そしてそれはこの曲に対しても同様です。大好きな曲です。彼に会ったのは、私が11歳の時に初めて国際コンクールを受けた時でした。ロシアのヴォロネジ (Voronezh) という都市で行なわれたコンクールで、彼は審査員としてそこに来ていました。モスクワからは近いですが、私の住んでいた所からは列車で3日間かかりました。当時のロシアは共産主義が倒れたばかりで、経済的に多くの問題がありました。私の両親は仕事の報酬に現金を得る事ができず、父は報酬として5台の掃除機を受け取っていました。マイナス40度にまで気温が下がる冬のさなかに、父と弟は現金を得るためにその掃除機を売って

ました。私はコンクールに大きな責任感を持って挑みました。なぜなら、両親が食料に使うべきお金をコンクールを受けるために使ってくれたからです。そのために最善の準備をし、幸運な事に優勝する事ができました。審査員だったホセ・マリアとはその時に会いました。私が持っていたギターはとても粗悪なものだったので、彼は皆がいる前で「来年にイリーナがコンサートで弾くために戻ってくる時に、新品のマヌエル・コントラレスのギターを贈呈します」と言いました。ロシアでは約束は守られない事が多いので、誰も彼を信じませんでした。

翌年に私が戻ってきた時、驚くべき事に彼は2台のギターを持ってきました。ホテルで彼は「これらは君のものだ」と言いました。とても信じられないような気持ちでした。彼は事前に私がポーランドでコンサートができるよう手配してくれていて、5月上旬にギターを受け取ってからポーランドへ行き、すぐに帰ってきて英語を1ヵ月勉強してイギリスのサマーコースに参加しました。全てが1年の内に起こった事です。彼のコンサートにも非常に感銘を受けました。彼のような高いレベルでのギター演奏を聴いた事はそれまでありませんでした。彼から〈カリフォルニア組曲〉の楽譜を受け取り、この曲はバッハの〈無伴奏チェロ組曲第1番〉と完璧な組み合わせになると思いました。いつの日かこの2つの組曲を共に録音したいと思ったのは私が13歳の時でした。その後、コンクールや日々の勉強の中でこの曲を弾こうと思っても「ポピュラー音楽すぎる、ヒナステラのソナタやスカルラッティなどを弾きなさい」と先生に言われ、ずっと機会を伺っていました。アルハンブラ・コンクールで優勝したときにCDを録音する機会があり、長年持っていた夢を叶えることができました。去年は彼の協奏曲をモスクワでオーケストラと演奏しました。彼と二重奏(でコンサート)を行ない、ナクソスに録音するという企画も予定しています。彼との二重奏は私のもう一つの夢です。これが彼との出会いです。彼は私にとって最も素晴らしいギター作曲家/演奏家の一人です。

—先ほどガジャルド・デル・レイさんとのコンサートのお話をされていましたが、チャイコフスキー・ホールで共演されたのですか？

K はい。チャイコフスキー・ホールで彼の協奏曲を演奏した時です。

—2台のギターのための協奏曲ですか？

K いいえ。元は1台のためでした。彼はとても多忙なため半分以上は楽譜に書かれていませんでした。モスクワのオーケストラとの共演のオファーを受けた時に、彼の曲を弾きたいと思い、彼から楽譜を送ってもらいました。しかし、かなりの部分が書かれておらず、彼とはEメールとスカイプで話合いました。始めのリハーサルの



ガジャルド・デル・レイ  
『カリフォルニア組曲』

時にオーケストラがしっかりとリズムを掴むことができないのを彼が見て「一緒に弾いて、即興で演奏しよう」と言いました。本番も一緒に弾き、とてもうまく行きました。

——この協奏曲はレリアーナ (L'Elia) という名前がついているそうですね。

K はい。彼が住んでいる場所の名前です。彼にはアナベル・ガルシア (Anabel García) というヴァイオリニストの奥さんがいて、彼女と共にマドリッドからバレンシアのレリアーナという小さい村に移り住みました。この協奏曲は彼の奥さんと彼が住むこの村に送られた曲です。とても素敵な場所です。

——若手ギタリストの中で特に親しい方はいらっしゃいますか？

K そうですね、例えばサネル・レディチ (Sanel Redžić) をご存知ですか？ 彼とは個人的に思い出深い経験をしました。彼がアルハンブラ・コンクールに来ていた時にアイスランドで火山の噴火が起き、ヨーロッパ中の飛行機が飛べなくなりました。私は2日後にアムステルダムからイタリアに行かなければならず、彼もドイツのどこかの都市に行く予定がありました。それに幾人かの友人の音楽家がスペインから出られなくなっていました。私は免許を持っていないかつ、持っていたとしてもレンタカーを借りるのは費用がかかりすぎました。最終的にドイツに運んでほしいという車を借りることができ、費用は2,000ユーロではなく200ユーロで済みました。そして、彼が私達全員と私達の荷物を送り届けてくれたのです。彼は私の命と私のコンサートを救ってくれた恩人です。普通にギターを演奏しているだけでは味わえなかった特別な体験です。彼にメールを送るときはいつも「命を救ってくれて、ありがとう」と伝えています (笑)。

日本の方では、谷辺昌央さんと親しいです。彼は私の結婚式にも来てくれて、大きな風船を膨らませてくれました (笑)。とても大切な友人です。

## ◎ 2種類の愛器

——今回は何のギターをお持ちになったのですか？

K 現在は2種類のギターを持っています。オーストラリアのサイモン・マーティーをソロのコンサートの時に使用しています。2007年製です。今回もマーティーを持ってきました。もう1つはマヌエル・コントラレスで、ホセ・マリアとの二重奏に使用します。彼もコントラレスを使用しているので。

——それは彼 (ホセ・マリア) があなたに贈呈したギターですか？

K より良いタイプの新しいギターです。

——コントラレスは息子さん (2世) の作品ですか？



それとも父の方 (1世) の？

K 彼 (2世) が亡くなったという悲報はご存知ですよね？ しかし、実はコントラレスの工房には20年以上働いていたもう一人の職人が居たのです。彼はホセという名前でマヌエル・コントラレスと彼の息子であるパブロ・コントラレスの下で働いてきました。多くの人は彼の存在を知りませんが、彼がコントラレスのギターを継承しています。彼はコントラレス2世が選定した42年ものの貴重な木材を使い、私のためにギターを製作しました。深い響きの、特別な音を持った素晴らしいギターです。ですので、杉と松を1台ずつ持っています。

——ではそのコントラレスが製作されたのはごく最近なのですね？

K はい。2012年です。コントラレス2世が亡くなった後、遺作のコントラレスが作られコントラレス・ギターはまたシリアルナンバー1から作られ、ホセ・マリアがNo.1を私がNo.2を持っています。

——どのようなギターを好まれますか？

K 深い響きを持ち、開放的な音のピアノのような楽器です。私はブランドや製作家にとらわれず、質の高い音が重要だと考えています。強く豊潤な音から小さくやさしい音までを様々な音色を出せる大きな能力です。サイモン・マーティーが好きなのは、チェロやピアノと比べられるほど重厚な音を持っているからです。比べると倍はやわらかい音ですが (笑)。しかし、同じレベルの深みを持っていると言えます。コントラレスは同じく大きな音の楽器ではありますが、もっと豊かな音色を持っています。松の楽器なのでもっと明るい音色でもあります。この2種類は男性と女性のような、まったく性格の違う楽器だと思います。松が女性で、杉が男性ですね。2つの違う人格のようです。

——本日はお忙しい中どうもありがとうございました。